

第4章 日付の関数とIF関数

STEP 1. 現在の日付 TODAY (トゥデイ)

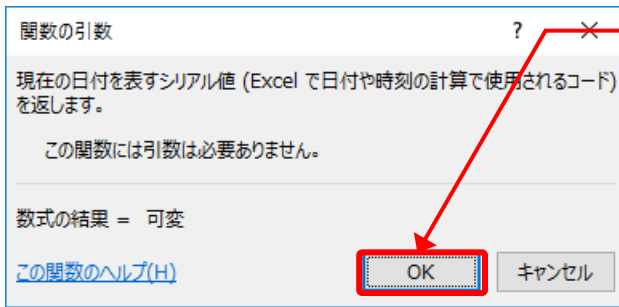
1. セル「B2」に TODAY関数を使い現在の日付を入力しましょう

The screenshot shows the Excel 2019 ribbon with the 'Home' tab active. The font settings are set to 'MS Pゴシック' and size '14'. The cell 'B2' is selected in the worksheet grid. A red arrow points from the 'B2' cell in the grid to the font settings area.

- 1 エクセルを起動し、シートのフォントを「MS Pゴシック」フォントサイズを「14」にします。
- 2 セル「B2」を選択します。

The screenshot shows the Excel 2019 ribbon with the 'Formulas' tab active. The 'Date & Time' category is selected in the 'fx' group. The 'TODAY' function is highlighted in the dropdown menu. A red arrow points from the 'TODAY' function in the dropdown to the 'B2' cell in the worksheet grid.

- 3 「数式」をクリックします。
- 4 「日付/時刻」をクリックします。
- 5 「TODAY」をクリックします。



6 「OK」をクリックします。

Book1 - Excel

ファイル ホーム 挿入 ページレイアウト 表示 ヘルプ 実行したい作業を入力してください

fx オートSUM 論理 最近使った関数 文字列操作 日付/時刻

関数の挿入 財務 日付/時刻

関数ライブラリ

B2 : x ✓ fx =TODAY()

2019/3/18

TODAY 関数が入力されました。

今回は「関数ライブラリ」を使って入力しましたが、キーボードから直接「=TODAY()」と打ち込んでもかまいません。

現在の日付が表示されました。

ポイント TODAY (トゥデイ) 関数

現在の日付に対応するシリアル値を返します。

TODAY()

練習問題

- セル「D2」に TODAY 関数を使って今日から 10 日後の日付を表示しましょう。

D2 : x ✓ fx =TODAY()+10

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2		2019/3/18		2019/3/28					
3									
4									
5									

日付はテキストとは異なります。

ヒント

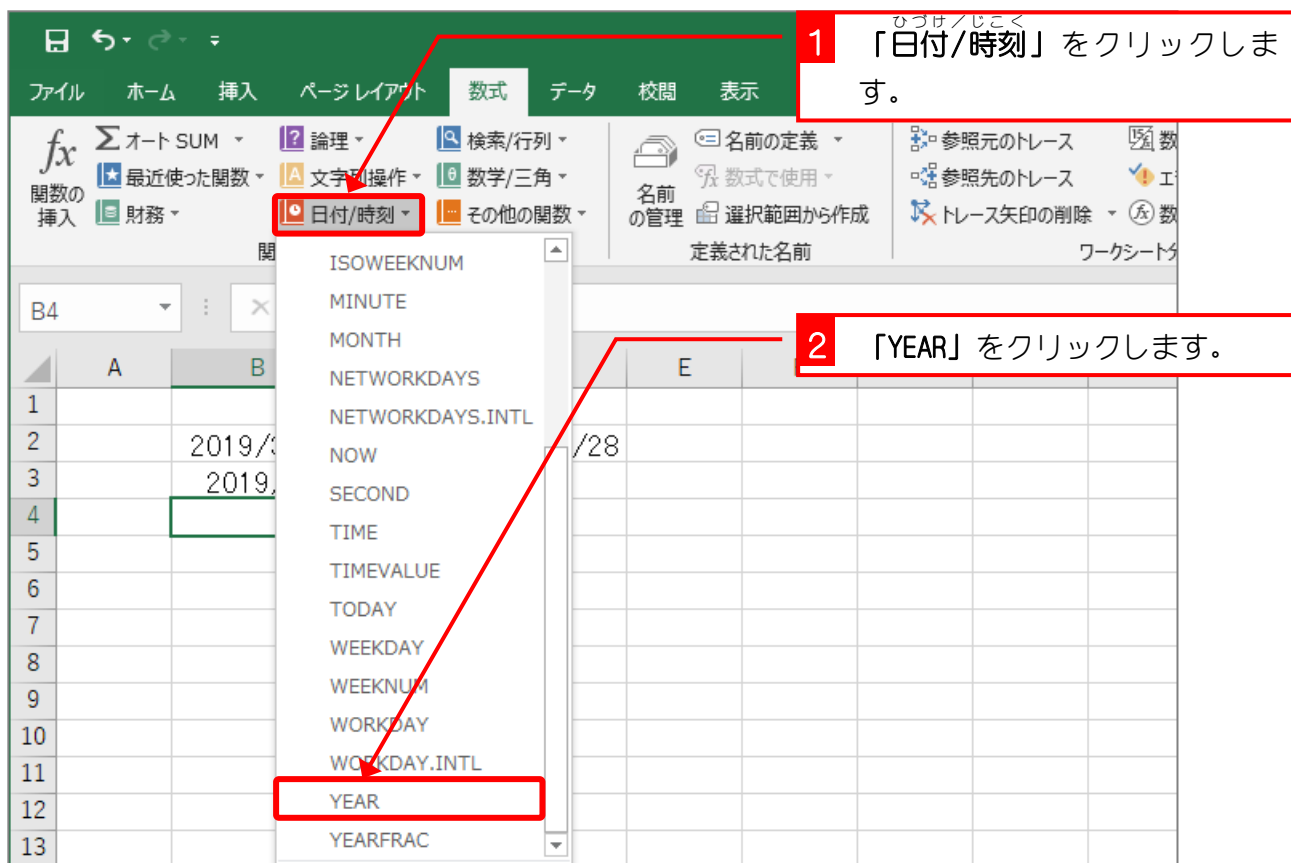
今日から 10 日後の日付は TODAY()+10 で計算します。

STEP 2. 日付から西暦を取り出す YEAR (イヤー)

1. セル「B3」に日付「2019/2/3」を入力しましょう



2. セル「B4」に YEAR (イヤー) 関数を使いセル「B3」の日付の西暦 (2019) を表示しましょう



YEAR × ✓ fx =YEAR()

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2		2019/3/18		2019/3/28					
3		2019/2/3							
4		=YEAR()							

3 セル「B3」をクリックします。

関数の引数

YEAR

シリアル値 | ↑ = 数値

=

年を 1900 ~ 9999 の範囲の整数で返します。

シリアル値 には Microsoft Excel で使用される日付/時刻コードを指定します。

数式の結果 =

[この関数のヘルプ\(H\)](#) OK キャンセル

参考 「関数の引数」ダイアログボックスが邪魔になる時は
 ダイアログボックスが邪魔になる場合はダイアログボックスを小さくしましょう。

関数の引数

YEAR

シリアル値 | ↑ = 数値

=

年を 1900 ~ 9999 の範囲の整数で返します。

シリアル値 には Microsoft Excel で使用される日付/時刻コードを指定します。

数式の結果 =

[この関数のヘルプ\(H\)](#) OK キャンセル

A シリアル値の ↑ をクリックすると小さくなります。

関数の引数 ? ×

B [] をクリックすると元の大きさにもどります。

関数の引数

YEAR

シリアル値 B3 ↑ = 43499

= 2019

年を 1900 ~ 9999 の範囲の整数で返します。

シリアル値 には Microsoft Excel で使用される日付/時刻コードを指定します。

数式の結果 = 2019

[この関数のヘルプ\(H\)](#) OK キャンセル

4 シリアル値が「B3」になったことを確認します。

5 「OK」をクリックします。

YEAR 関数が入力されました。

「2019/2/3」の西暦部分「2019」が表示されました。

「関数ライブラリ」を使って入力しましたが、キーボードから直接「=YEAR(B3)」と打ち込んでもかまいません。

	A	B	C	D	E
1					
2		2019/3/18			
3		2019/2/3			
4		2019			
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					

ポイント YEAR (イヤー) 関数

日付に対応する年を整数で返します。

ひづけ
YEAR (日付)

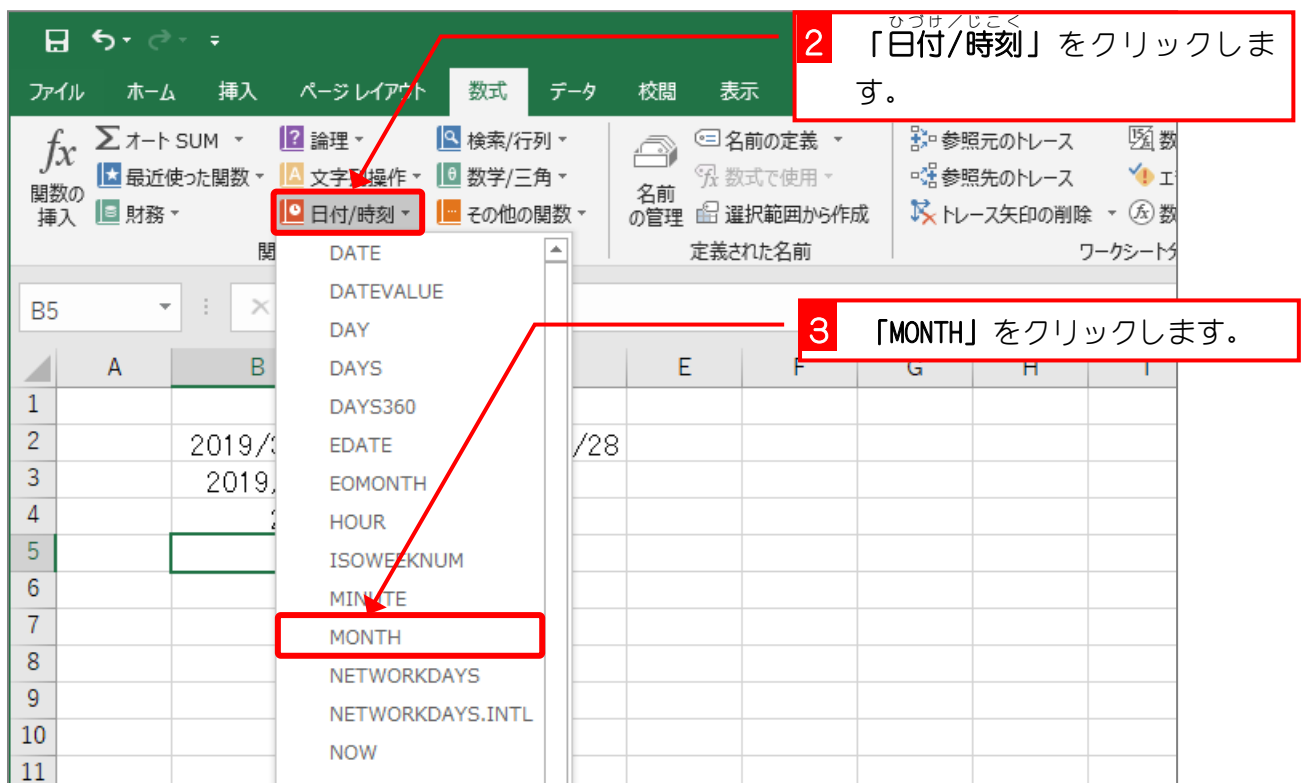
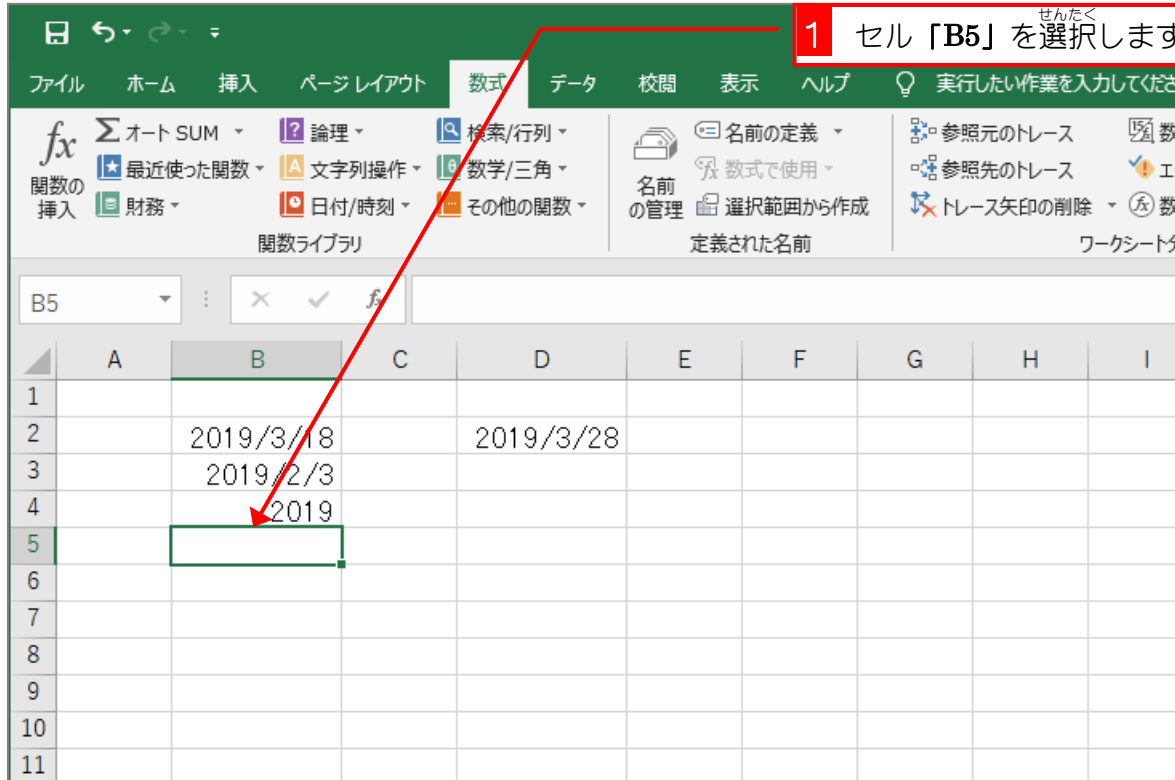
解説 関数の引数 (ひきすう)

関数を呼び出す時にその関数に渡す値を「引数」と言います。YEAR関数の場合「日付」が「引数」になります。YEAR関数は「引数」として日付の値を受け取り、その日付から西暦の値を計算し、計算結果を呼び出したところに返します。

「引数」は「YEAR (B3)」のように関数名の後に () を付けて記入します。TODAY関数は「引数」を必要としない関数ですが、引数がない場合でも () を省略せず TODAY() と書きます。

STEP 3. 日付から月を取り出す MONTH (マンス)

- セル「B5」に MONTH (マンス) 関数を使いセル「B3」の日付の月の「2」を表示しましょう



4 セル「B3」をクリックします。

5 シリアル値が「B3」になったことを確認します

6 「OK」をクリックします。

MONTH 関数が入力されました。

「関数ライブラリ」を使って入力しましたが、キーボードから直接「=MONTH(B3)」と打ち込んでもかまいません。

「2019/2/3」の月の部分「2」が表示されました。

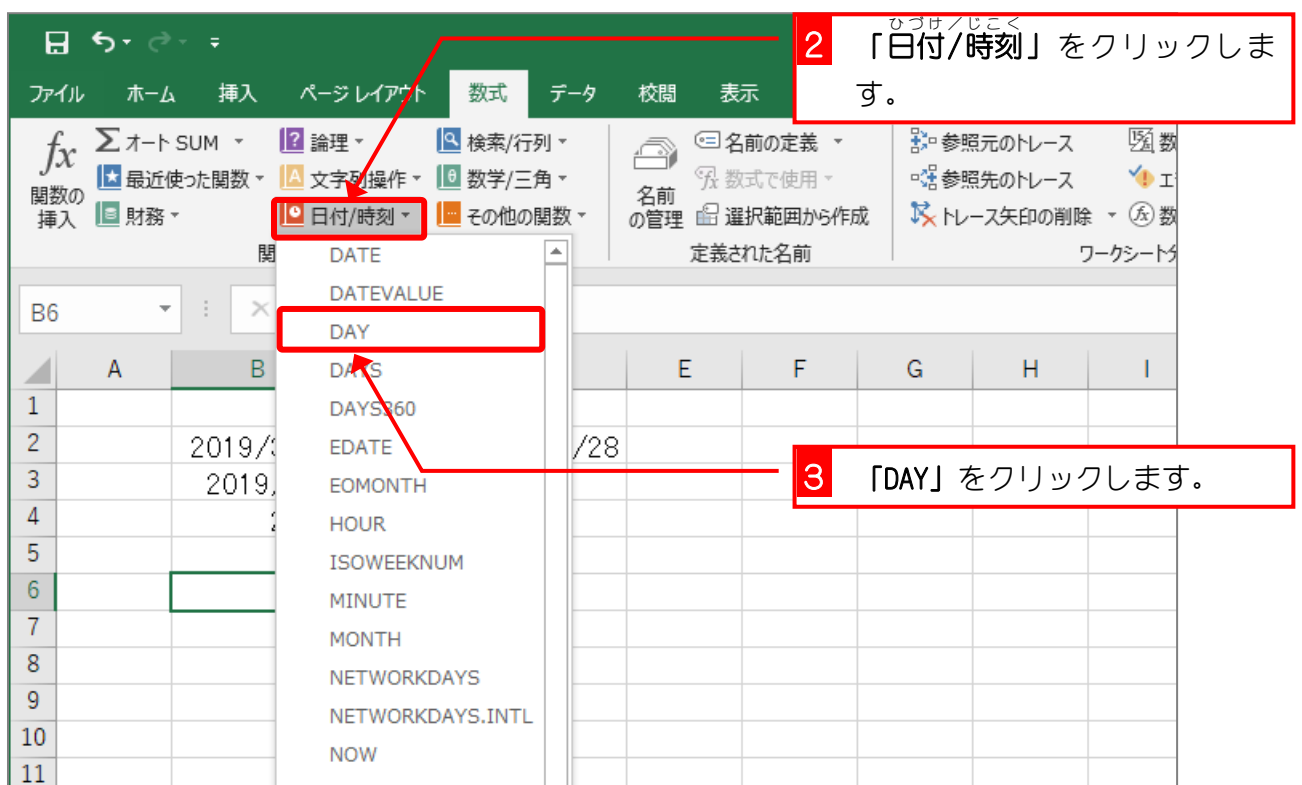
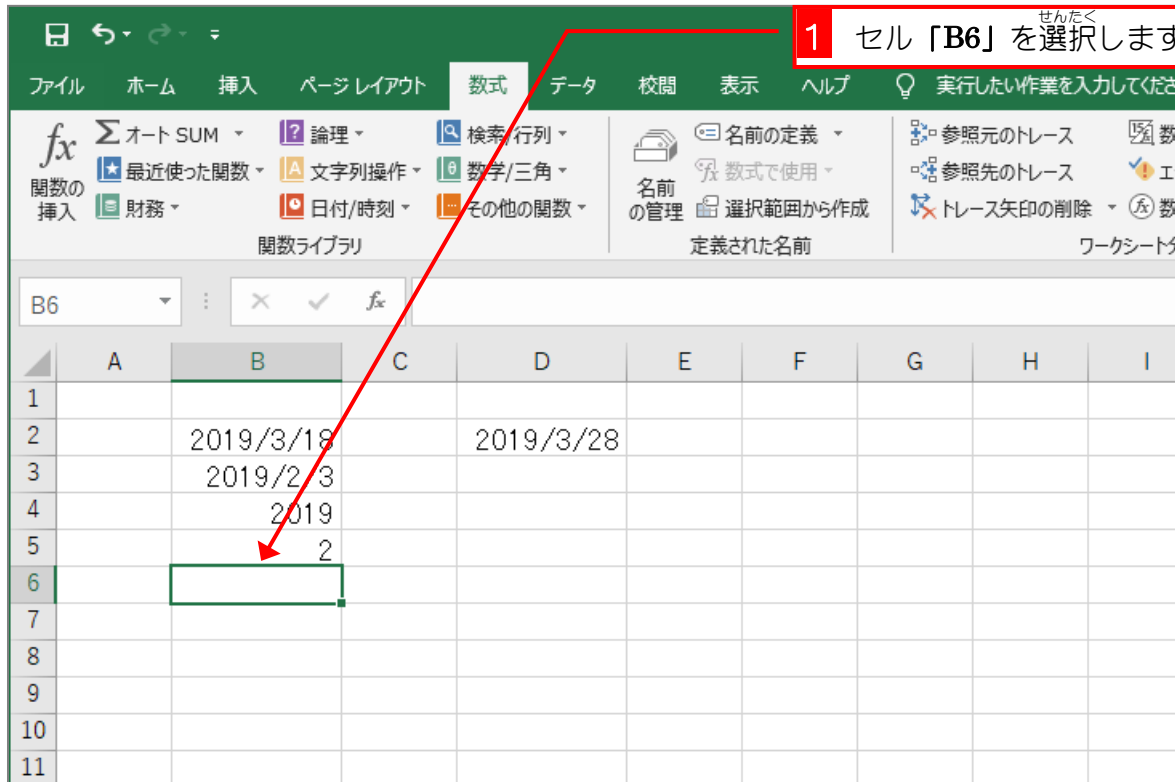
ポイント MONTH (マンス) 関数

ひづけ たいおう つき せいすう かえ
日付に対応する月を整数で返します。

ひづけ
MONTH (日付)

STEP 4. ひづけ 日付から日を取り出す ひとだ DAY (デイ)

1. セル「B6」に DAY (デイ) かんすう 関数を使いセル「B3」の ひづけ 日付の ひ 日の「3」 ひょうじ を表示しましょう



4 セル「B3」をクリックします。

5 シリアル値が「B3」になったことを確認します

6 「OK」をクリックします。

関数ライブラリを使って入力しましたが、キーボードから直接「=DAY(B3)」と打ち込んでもかまいません。

「2019/2/3」の日部分「3」が表示されました。

DAY 関数が入力されました。

ポイント DAY (デイ) 関数

日付に対応する日を整数で返します。

DAY (日付)

STEP 5. 2つの関数を組み合わせて使う

- セル「D4」に TODAY関数と YEAR関数を使い、今日の
日付の西暦を表示しましょう

